

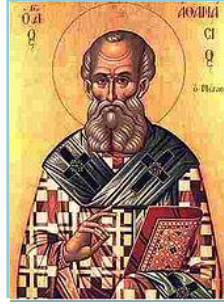
5月2日

## 主教教会博士アタナシオ

Αθανάσιος

(296頃～373.5.2)

～正統神学の父～



「大アタナシオスの  
イコン」

人名事典などではアタナシオスとも表記される彼は、アレクサンドリアの主教として生涯をアリウス派との闘争にささげた人物である。

アタナシオはギリシア人の両親のもと、エジプトのアレクサンドリアの名家に生まれる。そのころのアレクサンドリアは学問の都と呼ばれ、アタナシオも幼い時から猛勉強をしていたと言われる。

彼が生まれた時にはキリスト教は迫害されていたが、313年、ローマ帝国のコンスタンティヌス帝によるミラノ勅令で、キリスト教は公認される。その中で、アタナシオは20歳のときエジプトの隠修士アントニオと出会い感化を受ける。そしてさらに学問の習得と信仰的な修行生活を送っていく。

さて、ようやく迫害が終わりローマから公認されたキリスト教であったが、次に待ち受けていたのは異端との戦いであった。その頃、「キリストは被造物である」とするアリウス派がキリスト教を分裂させようとしていた。当時アレクサンドリアの主教はアレクサンドロスであったが、アタナシオはアレクサンドロスを助け、アリウス派との論戦を展開していく。

その状況を見ていた教皇は、325年ニカイアで公会議を開くことを決意、そこでアタナシオはアリウス派を論破し、ニカイア信条の基礎をつくりあ

げる。その神学の中心は受肉論(ロゴス・キリスト論)と三位一体論であり、キリストは父なる神と同実体であり、真の神であるとした。

さて、328年からアタナシオはアレクサンドリアの主教となるのだが、46年間の主教在職中に親アリウス派の四人の皇帝によって、ローマとトリエルに二回、エジプトの砂漠に三回の合計五回、通産十七年の間、追放され、逃亡を余儀なくされる。しかし4世紀の教会史において、アタナシオはほぼ独力で教会を異端的な流れから救った人物であることは間違いない。その著書には「異教徒反駁論」、「受肉論」、「弁論」、また「アリウス派論駁」、さらにエジプトの隠修士「聖アントニオス伝」などがある。(Y)

### <特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士アタナシオの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン